

<全体分析>

試験時間 75 分

解答形式

選択、記述、論述、計算

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

大問数は昨年と同じく5題。考察問題や計算問題が増加し、論述問題数や総論述字数も増加したため、難易度は昨年よりやや難化した。

その他トピックス

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野(テーマ)	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[I]	選択 記述 論述	細胞 タンパク質 ホルモン	生物 生物基礎		標準
[II]	選択 記述 論述	遺伝情報の発現	生物	問2(3) ヒトの男女における性染色体構成に着目して解答する。	標準
[III]	選択 記述 論述	光合成 細胞内共生説 物質生産	生物	問5(2) 3行目以降の「純生産量」は、世界全体での合計を意味しているのだろう。	標準
[IV]	選択 記述 論述 計算	遺伝 植物ホルモン 種子発芽	生物	問1(2) F_2 種子の表現型の分離比が、 $[AB]:[Ab]:[aB]:[ab]=9:3:3:1$ となることから考える。	やや難
[V]	選択 記述 計算	バイオーム 植生の遷移 標識再捕法	生物 生物基礎	問4(3)(i) 全個体数は、C=0となるときのTの値である。	やや難

*難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- 知識問題が多く出題されるので、基本的な問題で取りこぼさないようにすることが重要であり、全分野を通して、教科書を中心とした学習による基礎力の養成と標準的な問題演習が不可欠である。
- 論述問題と考察問題で点数に差がつくので、論述答案作成の練習を行うとともに、問題演習を通じて考察問題に対応できる力を養っておく必要がある。